

昭和九年九月十八日
七九五八

立案 昭和九年九月十八日
決裁 昭和 年 月 日

爵位課長



宗秩寮總裁



宮内事務官

故從五位上兼三等小田切萬壽之助位階
追陞一件

昭和九年九月十八日

昭和九年九月十八日裁可
九月廿一日達
臺帳記入九月十九日官報報告濟

宮内省

裏面白紙



故從五位勳二等小田切萬壽之助

位階追陞ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和九年九月十七日

内閣總理大臣岡田啓介



内閣

1802
156

外位第三九號

案起	昭和九年九月十四日
裁可	昭和九年八月十七日
施行	昭和九年九月
決定	昭和九年九月

内閣總理大臣 印

内閣書記官長

内閣書記官 印

故從五位勲二等小田切萬壽之助、別紙外務大藏兩大臣上奏、通功績顯著ナル者ニ候處本月十二日死去、趣ニ付特旨ヲ以テ左、通位階追陞、件上奏相成然ルヘシ

内閣

故從五位勲二等小田切萬壽之助
 特旨ヲ以テ位一級追陞セラル
 從五位勲二等小田切萬壽之助
 敘正五位

九月十二日付

本件ハ特ニ急ヲ
 受令方收前ハレ

第 三 九 號

案 起

昭和九年九月十四日

裁可

昭和九年八月廿七日

施行

昭和 年 月 日

閣總理大臣 改

内閣書記官長

内閣書記官



從五位勲二等小田切萬壽之助、別紙
務大藏兩大臣上奏、通功績顯著ナル
ニ候處本月十二日死去、趣ニ付特旨ヲ
左、通位階追陞、件上奏相成然ル

内閣

故從五位勲二等小田切萬壽之助

旨ヲ以テ位一級追陞セラル

從五位勲二等小田切萬壽之助

正五位

九月十二日付

本件ハ特ニ急ヲ安シ候ニ付至急
受令万收計ハレ度 内閣

157

内閣 外注 第 三 九 号

從五位勳二等小田切萬壽之助儀別記ノ通功績有之候處本月十二日死亡致候ニ就テハ同人積年ノ功勞ヲ録セラレ特ニ生前ノ日附ヲ以テ頭書ノ通位階追賜被仰出候様仕度此段謹テ奏ス

昭和九年九月十四日

外務大臣 廣田 弘毅



大藏大臣 藤井 莫



外務省

裏面白紙

めくれず

裏面白紙

敘正五位

改

從五位勳二等

小田切

萬壽之助

右者明治二十九年六月任二等領事以來明治三十八年七月依願本官ヲ
免セララルルニ至ル迄一等領事及總領事ニ歷任シ杭州及上海ニ在勤シ
同年同月横濱正金銀行顧問トナリ明治三十九年三月選レテ同行取締
役ニ就任シ爾來引續キ同職ニ在リ以テ今日ニ至リタルモノナル處同
人ハ在官中終始支那ニ在勤シ又横濱正金銀行ニ入りテ以來モ多年同
行代表者トシテ支那ニ在リシ關係上支那ノ國情ニ精通セルハ勿論有
數ノ支那財政通ニシテ從來日支兩國間經濟關係ノ進展及我對支事業
ノ振興上重要且緊密ノ關係ヲ有スル支那關稅問題ヲ始メ對支借款及
其整理問題其他一般的支那問題等ニ關シ直接間接之ニ關與シ帝國々

外務省

運ノ發展上ニ貢獻セル所甚タ多シ

同人ハ夙ニ支那湖北省ニ於ケル鐵鑛ノ我製鐵原料供給上頗ル有利ノ地位ニ在ルニ着目シ明治三十二三年ノ交機ヲ得テ湖廣總督張之洞ニ接觸シ遂ニ之ヲ説得シテ漢冶萍煤鐵廠鑛公司ヲシテ我製鐵所ニ對シ原料ヲ供給セシムルニ成功シ更ニ右供給ノ圓滑ヲ圖ルノ目的ヲ以テ明治三十七年我投資團ヲシテ同公司ニ對スル三百萬圓借款ヲ成立セシムルニ盡瘁シタルノミナラス其後同公司ノ事業發展ニ當リ橫濱正金銀行當事者トシテ我投資團間ニ奔走シ大正二年同公司ニ對シ千五百萬圓ノ借款ヲ成立セシメ更ニ大正十四年ニ至リ追加借款八百五十萬圓ヲモ成立セシメタリ大正初中期ニ亘リ同公司ヨリ我製鐵所ニ對スル鐵鑛石並ニ銑鐵ノ供給カ何等遺憾ナカリシハ勿論同製鐵所ノ擴

張ニ伴フ原料需要ノ増加ニ付テモ同公司カ能ク之ニ順應シ我製鐵事業經營上更ニ支障ナカラシメタルハ全ク同公司ニ對シ我方ヨリ潤澤ナル資金ヲ供給シ利權ヲ確保シタルニ因ルモノニシテ之ニ依リテ觀ルモ同人カ我邦製鐵事業ノ確立竝鐵鋼需給ノ緩和上貢獻セル所尠ナカラサルモノアルヲ認メサルヘカラス

是ヨリ先同人ハ總領事在任中明治三十五年二月日清通商航海條約改訂委員及清國關稅率換算委員被仰付之カ交渉ノ任ニ膺リ種々ノ障礙ヲ排除シテ遂ニ妥結ニ至ラシメタルカ當時ニ於ケル右功勞亦看過スヘカラサルモノアリ

又大正二年日英露佛獨諸國カ支那政府ニ對シ財政的援助ヲ與フルノ學アルヤ同人ハ在支帝國公使ノ旨ヲ享ケ或ハ支那當局ニ對シ或ハ各

國投資團體代表者間ニ奔走シ遂ニ同年四月前記五國銀行團ト支那政
府トノ間ニ支那改革借款契約ノ成立ヲ見ルニ至ラシメ、同人ハ我資本
家ヲ代表シテ同契約ニ調印シタルノミナラス其後同契約ノ運用ニ關
シテモ帝國ノ利益擁護上將又我對支經營上多大ノ力ヲ效シタリ
大正八年一月巴里ニ於テ平和會議ノ開カルルニ際シテハ同地ニ出張
シ支那問題ニ關スル蘊蓄ヲ傾倒シテ我全權委員ヲ輔ケ又大正十年十
一月華府會議ノ開催セラルルヤ同會議參列ノ帝國全權委員隨員被仰
付米國ニ出張シ經濟財政ニ關スル顧問トシテ全權委員ノ諮問ニ應シ
特ニ支那關稅問題ニ對シテハ其事情ニ精通セル見地ヨリ將又専門的
立場ヨリ重要ナル意見ヲ開陳シ或ハ有益ナル調査資料ヲ提供シテ立
案審議ノ參考ニ資シ我全權ノ任務達成上ニ貢獻シタリ

次テ大正十四年十月及同十五年七月ニ亘リ北京ニ於テ支那關稅特別會議ノ開催ニ當リテモ同人ハ我代表ノ爲内面的ニ活躍シ其任務ヲ幫助シタル所鮮少ナラサルモノアリ

更ニ大正十二年十二月外務省内ニ對支文化事業調査會ノ設置セララルヤ同月二十八日同調査會委員被仰付爾來今日ニ至ル迄十有餘年間熱心文化事業實施ニ關スル重要問題ノ審議ニ參畫シ其力ヲ效シタル功績沒スヘカラサルモノ存ス

同人ハ又我涉外啓發宣傳上ニモ寄與スル所多ク即チ明治三十三年事變當時上海ニ在リテ倫敦「タイムズ」通信員「ジェー、オー、ビー、ブランド」ヲ我爲ニ利用セルハ顯著ナル事實ナルノミナラス前記支那關稅特別會議開催當時北京ニ於ケル有力ナル英字新聞「ベキン、

リーダー」カ反日的傾向ヲ有シ動モスレハ我對支施策上障礙ヲナセルモノアルニ際シ之カ操縦ニ膺リ遂ニ同紙ヲシテ本邦ニ好意ヲ有セシムルニ至リタルカ如キ又南支ニ於ケル英文雜誌ノ雄タル「フア、アイースタン、レヴュー」ヲ懷柔シ今日同誌ヲシテ日本ニ對シ穩健ナル態度ヲ持シ常ニ殖民地ニ於ケル我治蹟ノ紹介ニ力ヲ效サシムルニ至リタルカ如キハ同人ノ盡力ニ負フ所多ク且同誌主幹タリシ「ブロンソン、リー」カ滿洲國ニ對シ今日ノ如キ關係ニ立ツニ至リタルモ其一半ハ小田切ノ斡旋ノ功與テ力アルモノトス

加之同人ハ夙ニ太平洋問題ニ着眼シ之カ實際的調査研究ヲ怠ラサリシカ偶々大正十四年布哇ヲ中心トスル太平洋沿岸諸國ノ學者、實業家、宗教家等ニ依リ第一回太平洋會議ノ開催ヲ見爾來同會ハ漸次諸

國ノ注目スル所トナリ關係各國ハ夫々調査會ヲ設立シ今ヤ直接太平洋ニ面スル諸國及其屬領ノミナラス之ニ利害關係ヲ有スル歐洲諸國ハ勿論國際聯盟モ亦密接ナル關係ヲ保持セントスルニ至ルヤ同人ハ其我國ニ至大ノ關係アルニ顧ミ進ンテ日本ニ於ケル太平洋問題調査會ノ事業ニ關與シ同會評議員トシテ銳意力ヲ效シ其間昭和四年十月及十一月ニ亘リ京都ニ於テ第三回太平洋會議ノ開催セラルルヤ之ニ對シ特ニ我國ノ對支投資狀況ニ關スル調書ヲ提出シテ重要ナル討議資料タラシメ又同會期中常ニ圓卓會議ニ出席シテ各國代表ト共ニ支那財政改革問題ヲ論議シ支那ノ内外債整理ニ關スル實情及之ニ對スル我立場ヲ闡明シ更ニ支那ニ於ケル日貨排斥問題ヲ提出シテ各國代表ノ注意ヲ喚起シ我態度ヲ理解セシムルニ不尠效果ヲ擧ケタリ

以上同人ノ多年ニ亘ル努力ハ全ク邦家ニ對スル赤心ノ效ス所ニシテ
其功績寔ニ顯著ナリトス

外
務
省

裏
面
白
紙

165

履 歷 書

府縣 東京府士族 原籍 東京市芝區白金三光町二百六十五番地 舊姓名

從五位勳二等小田切萬壽之助

明治元年一月 日生

年 號 月 日	任 免 賞 罰 等	廳 名
明治廿九年六月八日	任二等領事 授高等官六等	外務省
	賜三級俸 杭州在勤ヲ命ス	
全 年六月廿二日	兼任郵便電信書記	
全 日	兼任二等郵便局長	
全 年七月三十日	授正七位	官内省
明治廿九年十一月一日	兼任杭州郵便局長 授高等官六等	
全 年十一月八日	賜五級俸	外務省
全 三十年五月十八日	上海在勤ヲ命ス 着任、上八總領事代理ト可心得上自次官ヲ連任ス	全
	杭州在勤ヲ命ス	全
全 年六月十七日	鎮江蕪湖九江寧波温州兼轄ヲ命ス	全
全 年十二月廿二日	賜四級俸	全
全 三十年六月十三日	任一等領事 授高等官五等	
	賜四級俸	外務省
	授從六位	官内省
全 年九月十日		
全 年十月七日	清國商工業視察ヲ囑託ス	農商務省

(実録全書紙)

全三十二年	三月十三日	賜三級俸	外務省
全三十二年	五月十三日	敘勳六等授單光旭日章	賞勳局
全三十二年	六月十九日	官制改正別ニ詳令書ヲ交付セサルモノハ領事ニ任シ現官等相當ノ官等ニ叙シ俸給従前ノ通	
全三十二年	十月九日	杭州兼勤ヲ免ス	外務省
全三十二年	十月二十三日	免兼官	内閣
全三十三年	四月六日	九江兼轄ヲ免ス	外務省
全三十三年	九月三十日	賜二級俸	全
全三十四年	三月三十日	陞敘高等官四等	外務省
全三十四年	七月十日	賜三級俸	外務省
全三十四年	七月十日	敘正六位	宮内省
全三十五年	一月十日	任總領事	
		敘高等官四等	外務省
		賜二級俸	外務省
明治卅五年	二月二十八日	日清通商航海條約改訂委員被仰付	内閣
全三十五年	十二月廿八日	清國関稅率換算委員被仰付	全
		敘勳五等授雙光旭日章	
		明治三十三年清國事変ニ於ケル功ニ依リ勳五等授	
		光旭日章及金千三百圓ヲ授ケ賜フ	賞勳局
全三十六年	十二月八日	賜一級俸	外務省
全三十七年	一月十八日	日清通商航海條約改訂委員被免	内閣
全三十七年	五月廿日	清國関稅率換算委員被免	全
全三十七年	五月廿日	敘勳四等授旭日小綬章	賞勳局
全三十八年	四月廿日	陞敘高等官三等	
		賜二級俸	外務省
全三十九年	六月三十日	敘從五位	宮内省
全三十九年	七月十八日	依願免本官	

(美濃全郡誌)

(美濃全縣紙)

全	年十月十四日	敘勲二等授瑞寶章	賞勲局
全	六年三月十日	取締役重任	横濱正金銀行
全	全	清國支店出張所監理ヲ囑託ス	全
全	七年三月十日	取締役重任	全
全	七年八月五日	清國支店出張所監理ヲ囑託ス	全
全	七年八月五日	南洋新嘉坡、英領印度、英領緬甸視察ヲ囑託ス	全
全	八年一月	佛國ニ於ケル講和會議ノ爲メ同國ニ出張ヲ囑託ス	全
全	年三月十日	取締役重任	全
全	年三月十四日	清國支店出張所監理ヲ囑託ス	全
全	年五月十五日	支那各支店監理ヲ囑託ヲ解キ對支特殊事務取扱ヲ囑託ス	全
大正九年	三月十日	取締役重任	横濱正金銀行
全	年三月十二日	對支特殊事務取扱ヲ囑託ス	全
全	年九月七日	授旭日重光章	
全	全	對獨平和條約等締結ノ功ニ依リ旭日重光章ヲ授ケ賜フ	賞勲局
全	十年三月十日	取締役重任	横濱正金銀行
全	年三月十五日	頭取席事務取扱ヲ囑託ス	全
全	年十月八日	「ワシントン」會議ニ參列ノ全權委員隨員被仰付	内閣
全	十一年三月十日	取締役重任	横濱正金銀行
全	十二年三月十日	取締役重任	全
全	年十二月廿日	對支文化事業調査會委員被仰付	内閣
全	十三年三月十日	取締役重任	横濱正金銀行
全	年五月廿一日	金杯一組ヲ賜フ(華府會議清員ノ功)	賞勲局

外務省

人機密第五五九號

昭和九年九月十四日

外務大臣 廣田 弘



大藏大臣 藤井 真



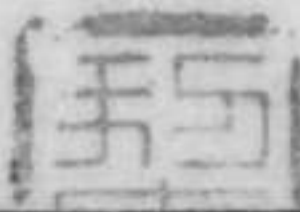
内閣總理大臣 岡田 啓介 殿

小田切萬壽之助位階追賜ノ件

從五位勳二等小田切萬壽之助位階追賜ノ儀別紙ノ通上奏致候間至急
可然御取計相成度此段申進候也

外務省

裏面白紙



丙 九十九年八月
九十九年四月

一 故徒五位重三景 小田切等奉旨之助
右特旨ヲ以テ敍位相成候ニ付位記竝辭令及回送候
條傳達方御取計有之度候也

昭和 九年 九月十八日

宗秩寮總裁 佐野木戸

外務大臣

宮内省

裏面白紙

(捺印)